

「パーソナルコンピュータ」とは何だったのか？

-「個人の」コンピュータというビジョンとその後-

授業内容

1980年代に生まれたパーソナルコンピュータは、開発者、起業家、そして多くのユーザーを魅了してきました。様々なハードウェアやソフトウェア、企業がゼロから次々と生まれ、私たちの生活や社会を大きく変えるまでに至りました。「コンピュータを個人が自由に使える」ということ自体が、皆を夢中にさせ、これまでのコンピュータの延長線上では考えられないことをどんどん生み出してきました。この変化は、技術そのものの進歩と、予言的なビジョンやアイデアと、先見的なビジネス戦略や投資が組み合わさって、初めて可能になったものでした。パーソナルコンピュータの30年の歴史を、「パーソナルダイナミックメディア」「ユビキタスコンピューティング」の二つのビジョンを縦軸に、インテルやアップル、マイクロソフトなどパーソナルコンピュータとともに生まれてきた企業を横軸に振り返ります。

- ・「ゴールドラッシュ」と「帝国の興亡」
- ・パーソナルダイナミックメディアの夢と現実
- ・パーソナルコンピュータの終わりとユビキタスコンピューティング
- ・技術とビジョンの相互関係

この講義で身につくこと

革新的な製品やサービスを生み出すためには、技術とビジョンの双方が必要であり、更にビジネス戦略や投資が不可欠であることを具体的な例で学ぶことができます。私たちの身の回りのやスマートフォンに込められた夢や情熱を知ることで、新鮮な気持ちで、これらの機器に接することができる(かもしれません)。

所要時間

1時間



高崎商科大学
商学部
教授・副学長
築 雅之

<専門分野>
情報教育
情報処理教育

